

府中市議会 第7回議会改革特別委員会会議録

平成31年2月21日午前10時0分、議会改革特別委員会を第一委員会室において開会した。

1 出席委員

委員	長	三藤	毅	副委員	長	本谷	宏行
委員		加納	孝彦	委員		安友	正章
委員		土井	基司	委員		加島	広宣
委員		岡田	隆行				
副議長		大本	千香子				

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事務局長 赤利 充彦 主 任 小林 正樹

1 本日の会議に付した事件

- (1) シンポジウムについて
- (2) 市民アンケートについて
- (3) 議員のなり手不足について
- (4) 次回の協議内容、日程について

~~~~~

午前10時0分 開会

○委員長（三藤毅君） ただいまから議会改革特別委員会を開会いたします。

本日の議事は、お手元に配信しておりますレジメに沿って進めさせていただきます。

それでは、議事に入ります。

まず、シンポジウムについての件を議題といたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局長（赤利充彦君） それでは、資料1を配信いたします。

〔「第7回 議会改革特別委員会 資料1」を説明〕

○委員長（三藤毅君） ただいま事務局が説明いたしましたシンポジウムについて、御意見がありましたら、順次御発言をお願いします。初めにシンポジウムの名称についてお願いいたします。

岡田委員。

○委員（岡田隆行君） 前回、講師の先生にもというお話もありましたが、最終的にはこ

ここで考えたほうがいいのかという結論だったかな。前に副議長が言われていましたけれど、これは自分の今の関心事にぴったり合いそうだなというネーミングがいいんだらうと思います。例えば、「あなたも市議会議員に」、「やってみたいな市議会議員」、「やりたいな、あなたもわたしも市議会議員」、少しやわらかい感じを出してみたんですが。

○委員長（三藤毅君） 3とおりに言われました。ほかにありませんか。

私の考えですが「どうする府中市議会」。

○委員（土井基司君） 岡田委員から提案されたものは、議員になりませんかという呼びかけが強いかなど。参加しようという人が、かえって構えてしまうかなと。議員になりたいという希望を持った人が参加するような感じで、そういう面が強いかなど思うので、議会改革の話ですからシンプルに「かえよう府中市議会」、変えますではなくて変えようというのは、議員と市民みんなで変えましょうという呼びかけのような感じでいくのがいいのかなと思います。

○委員長（三藤毅君） 今、5案ほどありますが、この中から選んでいく形でよろしいでしょうか。

○委員（安友正章君） ちょっと関西風に「それでもいいんかい府中市議会」。

○委員（加納孝彦君） 安友委員の案はおもしろいんですけど「このままでいいんかい府中市議会」としたらどうでしょうか。

○副議長（大本千香子君） 安友委員が出していただいた案の変化バージョンの「府中市議会このままでいいのか」みたいな感じにしてはどうですか。

○委員（岡田隆行君） いいなあと思って、「このままでいいの府中市議会」だとやわらかくていいのかなと思ったりしますが。

○委員（加納孝彦君） 「みんなでかえよう府中市議会」とか。

○委員長（三藤毅君） 出た案として、①あなたも市議会議員に、②やってみたいな市議会議員、③やりたいなあなたも私も市議会議員、④どうする府中市議会、⑤かえよう府中市議会、⑥それでもいいんかい府中市議会、⑦このままでいいんかい府中市議会、⑧府中市議会！このままでいいのか、⑨このままでいいの府中市議会、⑩みんなでかえよう府中市議会、のうち①から⑤はもういいですね。みなさん⑩はどうでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三藤毅君） それでは10番目の「みんなでかえよう府中市議会」に決定いたします。

続いてシンポジウムの内容ですが、お手元のレジメには時間配分が、講演40分、休憩10分、議題①20分、議題②20分、市民からの意見10分となっておりますが、一応こうい

う形での時間配分や内容でよろしいでしょうか。御意見がありましたら、順次御発言を願います。

○委員（岡田隆行君） 御講演をいただくというのは、とても貴重な部分なので大事ななと思うんです。しっかり打ち合わせをして、要は休憩の後の議題に入るんだけど前半20分で定数・報酬・政務活動費ということになれば、20分ってそんなに長くない時間ですよね。どういう流しをすればいいのかなと。それが一つのベースになって2番のなり手不足につながっていくんだろうと思うので。定数・報酬・政務活動費で20分だという形の進め方ができるかなと、ちょっと不安なんです。時間的にも短いような気がしてどうなんだろう。

○委員長（三藤毅君） どうなんだろうとは、絞ってはどうかということですか。

○委員（岡田隆行君） 一項目、6分か7分くらいのものでしたら、何かの提案をしてシンポジウムが始まるわけですけども、どう回すと来られている方がなるほどと思われるかなと思いました。例えば今回はこれと絞ることもあるだろうというのを感じました。あわせて、議題1と2に分けているけれども、なり手不足解消につながる議会改革というのが大きいあれなので、その中で例えば報酬はこうだよとか、定数はこうだよという話に持って行って全体としての40分間くらいの設定でもいいのかなと思ったりもしますが。

○副委員長（本谷宏行君） 個人的には、パネラーとして参加される方がどういう方が来られるのかよくわからない。ここに上げていただいておりますけど個人でいろいろだとは思いますが、答えていただくのに例えば定数・報酬・政務活動費と分けたほうが、それに対する回答というか、勝手なイメージとしては司会の方がいろいろ指名して、その方に答えていただくというふうなものをイメージしているんですけど。そういう投げかけに対して定数と一緒になり手不足について語られても、聞いている皆さんは分けた方がわかりやすいんじゃないかと私は思います。イメージとしては先ほど言ったとおりです。時間は確かに20分ですとそんなにはないと。例えばパネラーの方が5名なら単純計算で一人4分くらいの答えということだと思えます。ですから何度もできるだけ時間は無いと思うので、よりわかりやすく話していただけるほうが、思いを語っていただけるほうがいいのかなと思います。

○委員長（三藤毅君） なり手不足の解消ということですが、なり手不足の解消というよりは、それ以前の問題として議会にどのように皆さんが関心を持っていただくか、そういうようなところの話をしていただければいいと思うんです。どうやったら関心を持ってもらえるか。そのあたりについてはどうですか。

○副委員長（本谷宏行君） 関心や興味を持っていただくという形にするのであれば、議

題のところをそういうふうに変えて投げかけるほうがいいんじゃないかと思います。

- 委員長（三藤毅君） 皆さんどう思われますか。
- 副議長（大本千香子君） 議題が1番目に定数・報酬・政務活動費で、2番目になり手不足という分け方をしてあるけれども、本谷委員が言われる内容だと、最初の人に例えば今定数にぎりぎりであったというお話もあり、定数削減というお声もあり、そういう現状の中であなたは今市議会をどう思いますか。今の現状をどう考えていらっしゃるかと。いった投げかけというイメージでしょうか。
- 副委員長（本谷宏行君） 私がイメージしているのは、そういう感じかなと思っています。順番は興味を持ってもらうためにとか、関心を持ってもらえるためにとかが先に来てもいいのかなという感じはしますけど。
- 委員（加納孝彦君） パネルディスカッションを40分にして、議題としては、定数・報酬・政務活動費、議員のなり手不足に関することとしておいて、進行役を講師の江藤先生にお願いをするんだろうと思うので、一つ一つの議題ごとに明確に進行していただくという形にすれば、じゃあ、報酬について聞きますね、報酬だったら多いか少ないかで議論が早く終わるかもしれないので、例えば20分の持ち分で二つに分けてありますけど、実は定数・報酬・政務活動費が15分で終わるかもしれないし、ということで考えると40分をこの議題についてディスカッションしてくださいとお願いして進行する方がやりやすいんじゃないかなと個人的に思います。
- 委員長（三藤毅君） 加納委員が言われました、20分20分ではなくて40分で項目ごとに定数・報酬・政務活動費、なり手不足の解消につながるようなことについて、一つずつやっていただくような提案がありましたが、そのあたりは皆さんどうでしょうか。
- 委員（安友正章君） 私は、皆さんとは違う意見を持っています、定数・報酬・政務活動費という質問を投げかけたときに、答えが返ってくるのかというのが、すごく疑問に感じます。パネラーの人たち、先生が投げかけたときに議員の報酬はとか、議員の定数はという質問に対して、じゃあ、少ないに決まっているとか、多いほうがいいよというレベルの判断というのはなかなかできないと思います。それで、私はやはり今回の議会改革というのは、根本にあるところのものをどうしたらいいのかという話をして、その延長線上に報酬とか定数とかという方向のほうがいいような気がする。今回の無投票というのは日本全国で政治に対する無関心があることは間違いない。その根本は何なのというような話をして、皆さんと議員の姿であるとか、議会のあるべき姿なのという方向に持って行って、今回の議会改革を推進するようなパネルディスカッションのほうがいいと。そのためには40分の時間を使ってそういったところの掘り下げをしたほうがいいんじゃないかと思います。

- 委員長（三藤毅君） 今の御意見に対してはどうか。
- 委員（岡田隆行君） 今、安友委員が言ったことに賛成の部分が多いんですが、定数・報酬・政務活動費は一つの要因になってくるので、なり手不足がどうして今回こういう状態が起こったんだろうかねというところから投げかけて、先生の回し方で定数はどうだろうとか、報酬はどうなんだろうとか、他市のと比べると今こういう状態なんだけど、どう思っていますかというふうな形で流していかれる。一つの構成要素として使われる、定数・報酬・政務活動費などを、そういう形で40分間組むほうが聞いているほうからしてもおもしろいんじゃないかなと思います。
- 委員（安友正章君） やはり今回の議会改革というのは、根本に何があるのかということころをちゃんと私たちが認識していかないと、定数・報酬・政務活動費というのは、その後で出てくる話であって、やはり政治に無関心であるというところの根本的な理由を皆さんで話し合うことによって、改革に向かった道ができるんじゃないかと思います。報酬・定数・政務活動費はその後の話になっていくんじゃないかと思います。
- 委員（加島広宣君） 私は、加納委員が言われていた、定数・報酬・政務活動費と議員のなり手不足というのを一つのテーマとして、議題がみんなを変えようということなので、変える中身の内容としてこういうのがあるんだということで、講師の先生からパネルディスカッション形式で進めていくのが妥当んじゃないかと思っています。政治に無関心ということ掘り下げるとなかなかそちらのほうで答えが出にくいと感じます。
- 委員長（三藤毅君） 時間に関して20分と20分に分けていくのと、40分とおしてというのは。
- 委員（加島広宣君） 例えば、政務活動費に関しては、10分くらいでパネルディスカッションが終われば、その分余計になり手不足のほうに時間を回せるので、全体で40分ということで進めてもらうのがいいんじゃないかと思います。
- 副委員長（本谷宏行君） 先ほど加納委員が言われた方法でいいと思います。個人的にはイメージとして40分というくくりの中で進行役の先生にお任せして、振っていただくということでいいのかなと。あと、安友委員、岡田委員が言われたことは重要なことだと十分わかるんですけど、なかなかそういうところを議論した後で、定数とか報酬という議論にいくまでに相当時間がかかるんじゃないかという気がします。ですからその点につきましては、今後、当然議会改革は続けていくような課題ではありますので、そのあたりは継続していく大きな課題だと思います。
- 委員（土井基司君） 進行役は講師の先生ということで決まりでしょうか。それともこの中のメンバーの誰か、例えば委員長とかが進行役で、講師の方は総括する立場でいいのか、進行役は講師の先生という前提で話をしていますけど、そのあたりはどうなんで

しょうか。

○委員長（三藤毅君） そのあたりも含めてなんですけど、時間が時間なのでそこら辺は一応先生と打ち合わせる必要はあるのかなと考えていますけど。

○副議長（大本千香子君） 確かに妥当だと思います。誰が意見の集約をして次につなげて、次の意見をまた引き出していくということになると、やっぱり講師の先生にそのあたりの流れもきちんと一緒に相談しながら、先生からいろいろ出ている意見をまとめて次に流していただいたほうがわかりやすいのではないかと思います。最初に定数とか報酬とかがどんと出ると、振るのに私がもし進行役だったら皆さん並んでいらっしゃるパネリストの方に自己紹介も含めながら、思いを語っていただくところが絶対に必要なんじゃないかなと思うんですよ。安友委員が言われた今市議会や議員に対して無関心になっている、興味・関心がないという、そういう状況でどうなんですかという部分で、例えばPTAの代表の方だったらあなた自身がどう思っているのかというのを語っていただく場が最初にあってもいいんじゃないかなと思うんです。皆さんがそういった思いを自分の立場で、議会や議員に対しての思いを、なぜ無関心になっているかということを含めて語っていただいた後で、先生からなり手不足の議論であるとか、定数の削減であるとか、そういう議論が出ているけれどもというように一つずつ進めていっていただいたほうが話しやすいんじゃないかなと思います。段取りはどうなりますか。

○委員長（三藤毅君） そのあたりを先生と打ち合わせをさせていただかないといけないと思うんですが、回していただくのが先生のほうがやりやすいかもしれません。

○委員（岡田隆行君） 講師の方は一部で40分話されていますので、なぞ掛けを相当されている段階かなと思います。参加者の方は聞いてみてどうだったかというところからでもスタートしたら入りやすいですよ。そうすると40分が有効に使える気がしますので、一部を受けて先生の感想的なことから参加者も始めていく形がいいのかもしれないですね。

○委員長（三藤毅君） 誰かが司会をしてということでしょうか。

○委員（加納孝彦君） 江藤先生はこういう講演とか、ディスカッションになれておられるので、顔を出して好きなことを言うのが仕事だと思うんですけども、実際にパネラーとして呼び出す皆さんについては、議員も公開の場で改革委員会をやっている議員でも本音の部分が言えているのかどうかということがある。そういう中で市民代表とか子育て世代の人に名前と顔を出していただいて受けてもらえるのが非常に心配なところ。むしろボックスの中に入って1番2番3番とかという形で好きなことを言ってくださいと。ただ、誰かというのは特定できないようにしますというくらいしないと、本当に思っていることとか、出てもらえるのかなと思ったんです。定数・報酬・政務活動

費について聞いていきますよといったときに受けていただける方がおられればいいですけど、計画はしたけれども受け手が見つからないということも懸念されるのかなと思っています。

○委員長（三藤毅君） そのあたりは一応お願いに回って、その結果次第だと思います。確認いたします、時間配分は40分講演をしていただいて、10分休憩して、次に40分ディスカッションをしていただくと、残りの10分を市民からの意見ということで、時間配分についてはよろしいでしょうか。

○委員（加島広宣君） 後の10分の市民からの意見というのは、来られた方からということでしょうか。

○委員長（三藤毅君） 会場からの意見となります。

○副議長（大本千香子君） 市民からの意見について、この時点では江藤先生は入っていますか。ディスカッションでパネラーの方がいて40分やって終わりじゃないですか。一応江藤先生に40分のまとめなりコメントなり言われてディスカッションが終わりですよ。その後きょうおいでいただいた市民の皆さん、何か御意見がありましたらというような言い方で御意見をいただく形になりますか。それは司会者が仕切る感じになりますか。それか市民の方が議員は何をしているかよくわからんから、こんなシンポジウムなんかしても無駄だみたいなことを例えば言われたとしたら、その答えというか、言われたことを言われたままにしておくのか、それとも何か回答をするのか、きょうの内容に対して御意見がありますかとか、御感想がありますかという感じになったら絞りやすい。例えば江藤先生に何か質問がありますかとか、そういうものであったら受けやすいけれども、フリーでの市民の御意見はまとめようもないし、答えも難しくないかなという気がしますでしょうか。

○委員（加納孝彦君） おっしゃるとおりで、多分講評があると思いますけれども、講評の前にパネルディスカッションからの延長のような市民からの意見を聞いておいて、最後に江藤先生に締めていただくという形にしていれば、その中に回答も盛り込んでいただいたりとかできるのかなと。この辺は進行役の江藤先生ではなくて、司会の方に投げかけていただいて聞いてみたいことも含めて言っていただいて、パネルディスカッションともし意見が出れば、それもまとめて最後に講評いただければいいのかなと。

○委員（土井基司君） 私が個人的にイメージしていたのは、パネルディスカッションの一部として会場からの意見を聞くイメージだったんで、締めは意見の後に来ると考えていたので、それを言ったらパネルディスカッション自体が50分の計画なんだろうというイメージだったので、先ほど加納委員が言われた形になるだろうと思っていました。

○委員長（三藤毅君） パネルディスカッションは50分ということで、40分がそういう流

れで残り10分は会場に来られている市民の皆さんからの意見や質問をいただいて、最後に江藤先生に締めさせていただくという流れです。

○副委員長（本谷宏行君） 確認ですが、江藤先生への質問とパネラーへの質問や御意見をいただくということでしょうか。

○委員長（三藤毅君） パネラーへ質問ということにはならないのではないのでしょうか。

○副委員長（本谷宏行君） パネラーの中には議員の代表がいるので、そこが答えるべき質問とか意見が出るような気がするんですけど、一般の方への質問はなかなか出ないと思いますが、司会をされる方が会場の皆さんに投げかけるときに、そういう投げかけかたも言っていただく形にするほうが、発言しやすいのではないかという気がします。例えば江藤先生と議員にみたいなという言い方で。

○委員長（三藤毅君） パネラーとして出ている議員に対して、議員の皆さんは定数をどう考えていらっしゃるかと、削減はしないんですかと、そういう意見が出たときということですか。

○副委員長（本谷宏行君） そういう具体的な府中市議会の定数とか報酬とかそういうことについて出たときに、江藤先生が答えられる部分があれば江藤先生が答えられればいいと思うんで、そうでない部分は参加されて議員が答えるということになるんでしょうから、じゃあ、府中市議会としてその回答が全員の総意みたいな形になるんじゃないかと、回答としては議員が答えるのかなというイメージなんですけど、ただ、そうなった場合に具体的な数字とかが出てくると議会としての総意というのを踏まえて答えるようになるのか、そのあたりもどうなんでしょうか。

○委員（岡田隆行君） 今までの話として結論は出ていない、その中での過程としてこのシンポジウムがあるというぐらいしか答えようがないですよ。鋭意ここまでは話をしているということは言えるかもしれないけれども、決まっていることはあまりないので、そんなにたくさんのは言えないはずなので。それよりはシンポジウムを聞いて市民の方たちが、どうしても議員の代表として答えないといけない状況になれば、鋭意5回、6回と積み重ねて、こうやって御意見を聞いたりして次回に備えていくんですよというくらいで終えて、感想も含めて講師の先生に質問を受けるという形でいいじゃないかと思います。

○委員（加納孝彦君） 非常に難しいんだろうと思うんですけど。司会が多分ディスカッションを聞いて会場の皆さんに、きょうの話を聞いて、聞いてみたいことはとか、講師の先生に聞いてみたいことはといわれたときに、先生のほうで誘導していただいて、議員と江藤先生への質問じゃあなくて、漠然ときょうの意見を聞いたり、きょうのとは全く別の問題で思われていることはみたいない感じで、先生に誘導してもらえないかな

と思いますけれども、個別に定数だけ報酬だけをとって聞かれたときに、それは出られている方も気を使われるでしょうし、なかなか答えにくい部分もあると思いますので、江藤先生にうまく誘導していただくほうがいいんじゃないかと思います。答えようと思えばそのために今やっているんだということなので、パネラーで出られた方には胸を張って答えていただけるのではないかと思います。

○委員長（三藤毅君） 具体的なことで、御意見や質問が出たときに、それはどういうことが出るかわからないので、なかなか遮ることは難しいと思うんですよ。そうなったときには、議員がどう答えるかは個人的な意見として答えていただかないと議会全体を代表しているわけではないので、私はこう思いますとか、そこら辺はまた議会でしっかり協議して結論を出していきますというふうになっていくんだらうと思います。講演の内容について、シンポジウムの名称が「みんなでかえよう府中市議会」で、副題が定数・報酬等のあり方となり手不足の解消にもつながる議会改革、これを演題としてやってもらえばいいですか。

○副議長（大本千香子君） 先生の御講演の題そのものは、例えば、今地方議会に求められるものみたいな、オーソドックスのものでもいいんじゃないかなと思いますけれども、こういうタイトルをつけてやる中で、先生の講演そのものは、今必要なものは何かという視点から話をさせていただくというのでいいんじゃないかなと思います。

○副委員長（本谷宏行君） その一点に絞ってということでしょうか。議会、議員に対する無関心とかが大きな課題ということがあるので、そのあたりに絞った形で講演をいただくという意味でよろしいですか。

○副議長（大本千香子君） この地方議会に求められているものという中で、すごく守備範囲が広い題だと思うんです。例えば無関心層をどう掘り起すかということも入るでしょうし、政策提言力をどう磨くか、定数・報酬のあり方についてとかも含めた、求められているのは何なのかというのを話していただく、こういう題名で内容はもっと具体的になるとと思いますけれども、先生にお願いするのであれば話しやすいかなという気はしますが。

○委員長（三藤毅君） 今議会に求められているもの。皆さんどうですか。

○委員（加納孝彦君） 地方を入れてほしいなと思います。今地方議会に求められているものという形について、中身については今の副題を含めてお願いをすれば、その後のディスカッションにつながっていくかなと思います。

○委員長（三藤毅君） 内容については、シンポジウムの名称を「みんなでかえよう府中市議会」とし、40分の講演は、「今、地方議会に求められるもの」ということでお願いしたいと思います。その中の内容については、定数・報酬。政務活動費・なり手不足の問

題、また、政治への無関心ということも織り交ぜて御講演いただければと思います。

次に、パネラーの方ですが、市民代表、議員代表、子育て世代とかいろいろあると思いますが、ステージの広さにもよりますが何人くらいがよろしいでしょうか。今まではその会場では5名くらいですか。

- 副委員長（本谷宏行君） 5名から6名が限度かと思います。人数の根拠はありませんが、人数が増えると時間の関係もありますので、そのあたりも含めて考えると5名から6名かなという気がします。
- 委員長（三藤毅君） 5名から6名だと思うんです。そのうち1名が講師の先生なので。
- 委員（加納孝彦君） 講師の先生を入れて6名でいいと思います。
- 委員長（三藤毅君） それでは先生を入れて6名として、議員の枠は何名としますか。
- 副議長（大本千香子君） 1名でいいと思います。
- 委員長（三藤毅君） 議員は1名とします。その他にお願いに行くところは、町内会連合会、商工会議所、PTA連合会、女性連合会とかありますが、講演会の開催の御案内とパネラーのお願いもしないといけないと考えますが。
- 副議長（大本千香子君） 女性はどの立場でもいいので入れていただきたいと思います。年代層が偏らないように若い方も入るようにしていただきたいと思います。できれば選挙権をもらった感じの方でもいいんじゃないかなと思います。あまり年代層が固まるのは、意見がおもしろくないんじゃないかなと思うので、ばらつきがあったほうがいいと思います。
- 副委員長（本谷宏行君） 副議長が言われるとおり、年齢層にばらつきがあって、その中に女性が最低1名はいらっしゃるという形にすると、団体に任せるのが難しい部分が出てくるんじゃないかなと。そのあたりは議論すればいいと思いますが。団体というくくりでいうとJCであるとか、まちおこしに関わるNPOとかもあるので、その方をお願いするのもいいのかなと思います。お願いするときはその団体から女性をお願いしますという投げかけもできるのかなと思います。
- 委員長（三藤毅君） それでは、パネラーが6名で、そのうち1名が講師の先生、お願いするパネラー5名のうち1名が女性とします。PTA連合会から女性が出てくださるかもしれませんし。
- 委員（岡田隆行君） 若い世代と言われていたけれども、どこから出てもらうのがいいのか、選挙権をもった18歳や19歳で高校を卒業している方にも入ってほしいという気がしますね。どこに呼びかければいいのかわかりませんが。
- 委員（加納孝彦君） 全部いったらきりがないので、5名しかいなくて1名は議員なので4名しか選択肢がない中で決めていかなければならないので、絞っていくしかないだ

ろうと思うので、高校生もいたらいいとは思いますが、多分4名に絞っていく中では1番ではないと。ある程度府中市のなり手不足の状況であったりということもわかっていただいている方も必要だと思うので、ここに予定と書いてありますけど、町内会である程度年を重ねていらっしゃる方や現役で仕事をしているということでは商工会議所、子育てをしながらということでPTAの代表として女性が出ていただければベストかもしれませんが、女性連合会から女性の声ということで、まず、あたっていただくことでどうかなと。断られる団体もあるでしょうから、NPOにあたってみるとか、個人的なつてであたってみる必要はあると、大筋としてはこのあたりでいいんじゃないですか。

○副委員長（本谷宏行君） ある程度若い方ということであれば、NPOとかまちづくりを考えて活動していらっしゃる方のほうがいいと思います。議員が1名いて、子育て世代ということでPTAがあって、町内会連合会、もう一つということだと、私はNPOがいいと思います。

○副委員長（大本千香子君） その線でいいのではないかと思います。女性会という方たちがなり手不足とかの御意見はなかなか——できたら固定しない新しい御意見も伺いたいと思うとNPOの方を優先してもいいんじゃないかと思うので、できたらPTAのほうで女性を人選できればとかというような感じでいっていただいて、NPOから若い方が参加していく方向に持っていったらいいのかなと思う。

○委員長（三藤毅君） パネラーの依頼先として、町内会連合会、府中商工会議所、PTA連合会、NPOにあたって4名を出していただくということで、そのようにいたします。

○委員長（三藤毅君） 次に、参加者数300人は、これでよろしいですか。

○委員（土井基司君） 300人というのは会場のキャパからいけばそれを目標にするのはいいと思うんですが、その人数を確保する策はここで話しますか。広報の仕方も含めて。

○委員長（三藤毅君） 前回、議長から議員一人あたり10名とかいう話も出ていたので、そういう依頼はあってもいいんじゃないかと思いますが。

○委員（土井基司君） 一人10人呼ぼうと思ったら、結構な数に声かけをしないと、10人に声をかけて10人来てもらえるわけではないですよ。あるいは、チラシみたいなものをつくるのであれば、一人100枚くらいみんなに配るということをされるんじゃないかなということ。300人を確保する、そのへんをどこで話をするか。

○副議長（大本千香子君） 今2月なので、実際チラシを持って回るということになると、多分4月じゃないかなと思うんですね。次回の委員会でもいいと思いますので、300人集まっていただけのやり方について、皆さん考えて来ていただいて意見交換して決めて

もいいんじゃないかと思います。

- 委員長（三藤毅君） それでよろしいですね。議会の関心度、議会に関心を持った割合ということで事務局から77パーセントくらいという話もありましたが、目標は何パーセントとかあったほうがいいと思いますが、御意見がありますか。
- 副議長（大本千香子君） 関心度って何なのかと思います。関心がありますか、ないですかという質問そのものがナンセンスではないかと思っています。
- 委員長（三藤毅君） 関心度の出し方について事務局から説明をお願いします。
- 事務局長（赤利充彦君） 前回の平成24年のときの市民アンケートで返信があった1,081通の中で、関心がありますかという部分で、関心があるという方が27パーセント、少し関心があるというのが50パーセント、という意味で統計を取っていらっしゃいましたので、それをそのまま77パーセントとお伝えをしたところです。せっかくシンポジウムをするのに、関心を持ってもらおうということで行っていくのに、その割合を全然把握しないのはどうなのかなど。皆さんがシンポジウムが終わった段階でいい話だったなあ、これで少し議会に対する関心が深まったなあという、無関心という話がどんどん出ていたので、それは関心がどうなのかという指標を調べるのもいいではないかなということで、アンケートの中にもし入れるのであれば、できれば70パーセントとか80パーセントとかあったよというところが出せればと思ってここに書いております。
- 副議長（大本千香子君） 会場に来ている人は関心があると思います。それを目標値に設定するのはナンセンスだと思います。例えば理解が深まったかみたいなものであればありかもしれないですが、関心度での数値目標はいらないと思います。
- 委員（安友正章君） 全くそのとおり。大本副議長のおっしゃるとおりだと思います。その結果が無投票となっているわけですから、私たちの取り組みというのは関心がない、そこが根本的な問題だから、関心がないという前提で走っていくべきだと思います。それでその部分を掘り下げて、なんとか地方議会をもう少し違った形にするという方向が、今叫ばれている地方議会の改革ということなので、関心がないという前提で進めるべきだと思います。
- 委員（岡田隆行君） 当日のアンケートは、そんな詳しいことは書けないので、そういうところのアンケートをつくるのがいいと思います。1,081通という数字が出てきているのは、それは結局は3,000通を配ってということになりますよね。3,000通のうち1,000通返って来ているということは、1,000人はある程度関心がある。基本的には残りの2000人のほうが重要な面がありますよね。そうなってくると3,000通というアンケートに取り組んでいくときに、当日のアンケートと3,000通のアンケートと2種類あると区別しないといけない。当日アンケートは、ごくごくシンプルなものに関心が深まりま

したかというのを中心につくつたらいいと思います。原案があつて次回に協議したらいいと思います。

○委員（安友正章君） 私も勘違いで、さっきの話は先ほどの前回は行われたアンケートの結果という話でしたね。アンケートというのは質問の仕方、あるかないかで質問すると、そこに来ている人はあると、来ていない人たちはどうなのかというのは、私たちはチェックしたほうがいいと思います。

○委員長（三藤毅君） 目標については、議会の関心度というのは削って、次回の市民アンケートということでさせていただきます。この中のシンポジウムのアンケート内容については、また後日検討したいと思います。

○委員（土井基司君） 後日なんですけど、アンケートの内容を議論するためには原案を誰が作るのですか。この場でこういうふうに話してもなかなか進んでいかないので、時間が限られた中でやらないといけないので、提案ですが、そういう事務的なことを事務局にお願いできればいいんですが、事務局の負担も大きいですし、前回の委員会で議長から議員がもっと主体的にやらないといけないんじゃないかなという提起もありましたので、何班かに分かれて、アンケートはどの班が原案をつくるとか、班に分けるか担当を決めるかして、それをここでみんなで議論するようにしないと、話がなかなか進んでいかないんじゃないかと思うんですけど。

○委員（加納孝彦君） その案に賛成します。委員長から声かけしていただいて、班にするのか、一日中かけてみんなでやるのかといったようなことは、別途お知らせいただければいいかなと思います。

○委員長（三藤毅君） では、そのようにさせていただきます。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） 続いて、市民アンケートについての件を議題といたします。

それでは、事務局から説明を願います。

○事務局長（赤利充彦君） 市民アンケートにつきましては、前回の第6回の委員会のごときに第5回の会議でお示ししたものを、再度、お示ししておりますが、本日も第5回のごときにお示しした内容を第7回委員会のところへ入れておりますので配信いたします。

これが平成24年度に3,000人を対象に行った市民アンケートの問いかけ、答えの内容でございます。

○副議長（大本千香子君） 先ほど御意見が出て、当日の会場アンケートとそれから、別に取り市民アンケートについては、担当を分けてたたき台をつくるという御意見が出ていましたので、市民アンケートの内容、取り方については、そこである程度の方向を出していただいた上で、また持ち寄ってこの委員会で検討したほうがいいんじゃないで

しょうか。

- 委員長（三藤毅君） 大本副議長からの提案がありましたが、それでよろしいでしょうか。では、他の市議会の市民アンケートなども参考にして、この内容について別途の機会を設けまして会場アンケートと市民アンケートについては協議をしていただくということにさせていただきます。

休憩いたします。

~~~~~

午前11時29分 休憩

午前11時32分 再開

~~~~~

- 委員長（三藤毅君） 再開いたします。続いて、議員のなり手不足についての件を議題といたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

- 事務局長（赤利充彦君） それでは資料2を配信いたします。

〔「第7回 議会改革特別委員会 資料2」を説明〕

- 委員長（三藤毅君） ただいま事務局が説明いたしました、議員のなり手不足について御意見がありましたら、順次御発言をお願いします。

- 委員（岡田隆行君） 試案としてはきちんとまとめてくださっているのですが、今までの論議を踏まえての蓄積なんだろうと思って見させていただいております。その中で環境整備に入るかもしれませんが、女性の方、若い女性の方をとにかく、男女共同参画推進法ができて本来なら議会も実現しないといけないんだけど、実際問題は市町村だと14.8パーセントというのが出ていますが、1割くらいしか女性がおられないという状態なんですね。それはここには出産とか育児とか介護などの保障がないということがあるんだけど、地方議会でどこまでできるのかを私は十分検討していないんだけど、できる場所があれば具体的にどんどんやっていったらいいなと感じながら見ておりました。議会の傍聴にも来てくださるような、そういうお知らせも大変必要なんです、来られた方の御意見としてこの中に出ていますが、例えばトイレなんかもそうですし、体が不自由な人がとても使いづらかったと言われたり、少し身の回りのところを自分たちで点検していく必要はあると思いました。

- 委員長（三藤毅君） タイトルが議員のなり手不足解消につながると書いてあり、この中が解消につながるかどうかなかなか難しいところではありますが、少なくとも議会に関心を持ってもらえるような仕組みづくり、また、市民からの意見、要望が吸い上げられるような仕組みづくりがいくらかでもできればと考えています。きょう提案というこ

とでありますので、この中でもできることできないこと、また、すぐにできること、時間がかかることというようなこともあると思いますので、会派に持ち帰っていただいて協議していただければと思います。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） 続いて、次回の協議内容、日程の件を議題といたします。

次回のテーマは、定数・報酬・政務活動費については、一応この中で話では、定数は削減というような話も多かったように思いますけど、シンポジウム後に具体的な数とかを詰めて行きたいと思いますので、そこまでに会派でいろいろと議論をしていただいて、シンポジウム後の委員会で詰めていくことにさせていただきます。今回はきょう提案させていただいた、なり手不足について協議したいと思いますがいかがでしょうか。

○副議長（大本千香子君） 確かに、なり手不足の解消にもつながる議会改革というのが出ているんですが、なり手不足という言い方が、いかにも他人事の部分が感じられて、私たちは議員になっているわけで、なり手不足ということを私たちが議論することが何かピントがうまくはまらない議論になりそうな気がするんです。副題としてあってもいいとは思いますが、例えば市民と議会と一体化して何かできるとか、もっと市民と議会の距離が近くなるとか、少し表現の方法を変えていただいたほうが私たちの議論がやりやすいと思ったんですが、いかがでしょうか。

○委員長（三藤毅君） その点について、皆さんいかがでしょうか。

○委員（土井基司君） なり手不足解消ということで行くと、無理やりなり手をつくるような感じにもなると思うんです。魅力があればみんななるのでしょから、議会なり議員が魅力的になるにはどうしたらいいかという――副議長が言われるとおりでと思います。

○委員長（三藤毅君） よく無関心、無関心と言われるわけですけど、その反対で言えば関心を持ってもらう、少しでも何か関心を持ってもらえるような仕組みづくり、いろいろ市民の意見を聞いたりとか、委員会ごとにやってみたりという取り組みはあるんですが、そういうのを定例化するとか、そうやって市民の意見を聞くことができたらいいいと思いますし、また、議会報告会のあり方とかいろいろな問題はあろうかと思いますが、副議長が言われたことに関しては、やっぱり議員としてピンと来ないといわれればピンとこないんですけど。

○副委員長（本谷宏行君） 確かに他人事みたいな感じに受けられかねないので、そういう副題をつける方法がいいのかどうかはわかりませんが、そういうことは、次の会議までに副題というかこういう文言を考えてくるのはどうでしょうか。

○委員長（三藤毅君） 副題というのはどういう感じ。

○副委員長（本谷宏行君） 副題をつけるのがいいのかどうかよくわからないんですが、副議長が言われたように、諮問の二つ目に上っているこの部分は外されないんでしょうから、この中で議論するためにもっと主体的と受け止められるような、副題というようなものをつければいいんじゃないかと思います。

○委員長（三藤毅君） 府中市議会の取り組みとして書いてありますが、ここを変えろということでしょうか。

○副議長（大本千香子君） 例えば、土井委員が言われた、市民の皆さんに魅力的な議会を目指してというみたいなものが題になって、副題として議員のなり手不足解消につながる議会改革の推進という形だと、これは諮問事項になるので、なおかつ私たちがもっと議論するのに身近な題としてというんだったら、魅力ある議会だったり、魅力ある議員だったりというほうが、自分のこととして議論ができるんじゃないかなと思います。そういう意味で上につける題をつくったほうがいいんじゃないかと思います。

○委員長（三藤毅君） 提案があったので、題を「魅力ある議会を目指して」でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三藤毅君） それでは、題を「魅力ある議会を目指して」に決めさせていただきます。副題として「議員のなり手不足解消につながる議会改革の推進」とさせていただきます。内容につきましては、会派に持ち帰っていただきまして、現在やっていることについても、こういう内容に変えたほうがいいんじゃないかということも含めて会派で御協議いただければと思います。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） 続いて、次回の日程はいかがいたしましょうか。

〔意見交換〕

○委員長（三藤毅君） それでは、次回の日程は3月22日（金）午後1時からといたします。内容はなり手不足を議論いたします。また、シンポジウムの後に定数を決定いたします。

○委員長（三藤毅君） そのほか、何かありますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（三藤毅君） 事務局から何かありますか。

○事務局長（赤利充彦君） ありません。

○委員長（三藤毅君） なければ、以上で議会改革特別委員会を散会いたします。

午前11時54分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

平成31年3月1日

府中市議会改革特別委員会

委員長 三 藤 毅